

## 北国街道小諸宿の女性たちのエンパワーメントの軌跡

佐藤サカエ

### 第1章 はじめに

結婚 46 年。前半を下請け工場の切り盛り、後半をそば屋の女将という暮らしをしてきた私は、3 人の子育てという大きな希望に助けられ夢中で過ごしてきた気が付けばもう 70 歳という年齢を迎えた。

いつの世も庶民の生活は楽ではない。私の場合は夫が頑張る下請け工場経営がなかなかうまくゆかず、生活保護受給やサラ金に追われる日々に、心身をすり減らす暮らしをしてきた。でも、70 歳を迎えた今、慎ましくも穏やかな暮らしができるようになって、色々な辛かったことが全部私の心身の栄養になったのだと思えるようになった。

胸を張って、世の中を真っ直ぐ見て、誰にでも自分の考えを伝えられる力が付いたと思っている。

平成 7 年 11 月、夫は幼少期に住んでいた中心部市街地にそば屋を開店させた。現在の住居にほど近い場所なので、そば屋に通うには便利なところであり、客足にも期待がもてそうな所と判断したようだった。下請け工場の切り盛りに区切りを付けて、起死回生、崖っぷちの賭けのような再出発だった。時の流れに助けられ、子どもたち 3 人の成長も見届けられた私は夫のこの行動が嬉しく、大きな夢をそば屋に託して、再出発をした。

「北国街道小諸宿」ここでの暮らしが、私の人生の集大成になることを心から喜んで、日々過ごしている現在である。

### 第2章 商都小諸の歴史と女性たち

#### 第1節 江戸末期～平成の小諸の変化

<江戸時代>

小諸は、戦国時代、仙石秀久によって整備され、徳川の時代になってからは、徳川譜代が治める城下町として栄えた。また、北国街道が整備されてからは、宿場町、物流の中心地としてさまざまな機能を発揮した。現在も往時の面影が残る町並みは、小諸の観光資源となっている。

<明治・大正・昭和>

明治 21 年小諸駅が誕生。それ以来、主に製糸業、醸造業、呉服業で栄えた。小諸の一番元気の時代は昭和 30 年代ごろまでと言える。お祭りの時などは、近郷近在からの買い物客で、道を容易に横断できなかったほどだったと聞いている。その後、高度経済成長期を経て、地方都市には辛い平成の時代になる。

★この続きは『2015 年度「日本女性学習財団賞」受賞レポート集 学びがひらく vol.5』で！